

第67回日本臨床検査医学会学術集会 ランチンセミナー 11

第3回臨床検査支援協会セミナー

2020年 11月20日(金) ～ 21日 (日)

オンデマンド配信：本セミナーは Web 配信です。

視聴には学術集会に参加登録が必要です。登録方法は、学術集会のHPをご確認下さい。12月にも2週間ほど配信予定です。

司会：高橋 伯夫（ASCL担当役員）

ご挨拶/定例報告 12:10～12:15

「ご挨拶」 渡邊 清明 （ASCL理事長）

「ASCL活動報告」 石橋 みどり （ASCL副理事長）

第1部 12:15～12:30

日本臨床検査同学院：新たな資格試験の公益事業化

講師：宮地 勇人

（公益法人 日本臨床検査同学院理事長）



第2部 12:30～13:00

在宅医療を支える臨床検査

講師：小谷 和彦

（自治医科大学 地域医療学センター教授）



公益社団法人日本臨床検査同学院における新たな資格試験の公益事業化：POCT測定認定士と遺伝子分析科学認定士

宮地 勇人 東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学 教授

公益社団法人日本臨床検査同学院（同学院）は、専門的人材の育成を通して良質な医療の提供に貢献する団体として、2014年4月に内閣府より公益認定を受け6年が経過した。第三者評価の拡がりなどを背景として、資格認定試験の受験者数は増加傾向にある。2020年2月には、POCT測定認定士と遺伝子分析科学認定士の2つの資格認定試験について、公益事業追加の申請が内閣府にて厳正な審査のもと認められた。その背景には、検体検査の品質・精度の確保に係る医療法等の改正の施行（2018年12月1日）がある。新型コロナウイルス感染症のパンデミックの国難においても、安全な医療の遂行と感染制御のため、PCR検査の拡充と検査技師の養成の重要性が強調されている。本講演では、発展・普及が著しい分野の専門的知識と技術を評価する資格試験として、新たに公益事業化したPOCT測定認定士（新設）と遺伝子分析科学認定士（公益事業変更）について、趣旨と経緯および概要について紹介する。

在宅医療を支える臨床検査

小谷和彦 自治医科大学 地域医療学センター

地域医療学部門 教授

地域包括ケアシステムや地域共生社会の実現が推進される時代にあって、在宅医療はその一翼を担う。在宅医療では、近年、非がんで超高齢といった患者像の変化が見られ、また診断や治療の方法にも進歩がうかがえる。診療の客観的指標として、また多職種間の情報共有あるいはコミュニケーションツールとして、臨床検査（値）は役立つ。病状の安定した慢性期のみならず、その安定を損ねる急変時（急性期）に、病態判断や医療的処置に資するpoint-of-care testing（POCT）は特に重宝される。検体検査では、血糖、炎症反応、心筋マーカーのような項目が、また生体情報（生理機能）検査では小型携帯型の超音波検査が活躍しつつある。最近では、発達する情報通信技術システムへの検査結果の伝達や、疾病管理だけでなく安全な日常生活の確保を目指す生体情報モニタリング検査の試みも見られるようになっている。臨床検査の適正な活用は、ケアに対する患者さんや家族の満足度を高め、在宅医療の質を高めると考えられる。